

# 三翠化学会

(題字は稲川先生)  
第 67 号  
平成 30 年 8 月 8 日 発行  
三翠化学会  
津市栗真町屋町 1 5 7 7  
三重大学大学院生物資源学研究所内  
電話 / (059) 232 - 1211  
振替 / 00890 - 1 - 59345  
印刷 / 株式会社 あるむ  
TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

## 平成二九年度 総会報告

酷暑の候、三翠化学会  
員諸氏におかれましては、  
益々ご健勝で御活躍のこと  
と喜び申し上げます。平  
素は同窓会活動にご理解  
ご協力いただき誠にありが  
とうございます。

講演会は、  
本会同窓の(株)  
エステム名譽  
会長 鋤柄修氏  
(大12回) に  
よる「自由を  
求めて自主独  
立」環境ビジ  
ネスと会社経  
営に人生をか  
けて」と題  
する鋤柄氏の  
半生をかけた  
会社経営につ  
いての講演を  
聞かせていただきました。



講演会講師 鋤柄修氏

平成二九年度総会  
一〇月二一日(土) 母校三  
重大学生物資源学部大会議  
室で開催されました。勝崎  
副会長司会のもと、杉崎会  
長、梅川学部長の挨拶に続  
き、議長に伊藤氏(大25回)  
を選出し、平成二八年度事  
業報告(西尾幹事)、会計  
報告(木村副会長兼会計)、  
監査報告(久松監事)が行  
われました。ついで、二九  
年度事業計画、予算が提案  
されましたが、今年度は重  
要な議案もなく、全議案と  
も満場一致で承認されまし  
た。

聞かせていただきました。  
大学卒業後のサラリーマン  
生活を捨てられ、友人と環  
境ビジネスを立ち上げ、年  
商五〇億円の会社に育て  
上げられた過程のその場  
その時の決断や苦労話を  
ユーモアたっぷりに話さ  
れ、全員に感銘を与えられ  
ました。

その後の懇

杉崎会長挨拶



親会は、大学  
生協第一食堂  
に会場を移  
し、四八名の  
方が参加され  
ました。古山  
氏(大24回)  
の司会で、本  
会副会長木村  
氏(大25回)、  
生物圏生命化  
学科生命機能  
化学講座主任



講演会講師 鋤柄修氏

の茹田先生(大30回)の挨拶、山田氏(大30回)の乾杯音頭で懇親会が始まりました。  
恩師のスピーチでは、長老の嶋林先生、久しぶりに参加された小宮先生は近況や教官時代の思い出話、学内の木村先生、新任の國武先生は新しくなった生物圏

びかけました。  
よって、会報は約一、四〇〇部近く配布しました。結果が四八名の参加で、学生諸氏一〇名、同窓でない先生方五名、合計一五名を除くと同窓の諸氏の参加は三名でした。本部の同窓会としては、今

昨年五月二八日、同窓生十七名が桑名に参集した。クラス会は平成五年から始まり、ほぼ二年毎に実施、今回で十一回目を数える。参集後、宿泊するホテルで早速オリエンテーションとなった。卒業以来五十数年ぶりに初めて会う人や、幾度となくお互い健在を確認できる人もいた。学生時代の風貌は、老人になったこと以外、特に変わり映えしない。故人となった同窓生六名を偲んで黙祷した後、各自が近況報告をした。以下はお世話になった秋田、林(真)両幹事のプランによる観光と懇親会について、余り面白い報告でないが、責を果たしたい。

最初、六華苑を案内してもらった。山林王といわれた諸戸氏の豪邸(重文)と日本庭園であった。次いで長良、掛斐両川が合流する辺りの七里の渡し場跡も見物させてもらい、伊勢湾台風時の災害を思い起した。当時、私たちは大学一年だった。懇親会は桑名名物、蛤料理の老舗、日の出で開催した。大きな蛤の貝には驚いたが、蛤鍋、焼き蛤、天ぷら、蛤だしの雑炊等多くの料理だったので、酒の方は控え気味だった。翌日は、なばなの里でベゴニアなど数々の花

木をゆつくりと見学でき、昼食後に解散となった。桑名土産にと買求めたアサリの佃煮は、実に塩辛く、もし殿様がアサリのしぐれ茶漬も好んだとすれば、随分と田舎殿様だったのであると思つた。

近年までクラス会に出ていた人の死が話題になると、お互いの持病や薬が話題となり、会の空気が湿っぽくなる。教養をひけらかす話題や政治など時事問題でも出そうなら、座は浮いてしまう。田舎者の筆者は名勝観光と料理の興味に専念したつもりだが、やはり学生時代の思い出や趣味の話が出てしまう。同期で出世した人を妬むような話題はなかつたと思うが、お互いが分相応だとわきまをえれば問題はないのだろう。

東海支部の懇親会は年に三、四カ月に一度、夕方六時、名古屋市の金山総合駅の隣にあるANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋の二階ビュッフェレストラン「ガーデンコート」に集まり、開催してお

ります。料理は月替わりとなつており、北海道、九州やアメリカ、九州やアメリカなど名古屋に居ながらにして日本や世界の料理を味わうことができます。時には鮎の解体ショーなどのイベントに遭遇することもあります。

毎回、愛知・岐阜・三重在住の方を中心に一〇名から二〇名ほどにご参加いただき、互いの近況を話し、誕生日をお祝いしています。写真は誕生日お祝いの記念撮影です。二〇一八年四月に鋤柄さんが著書を発行されました

ので、今回はそのご紹介させていただきます。鋤柄さんは数々の苦勞を重ねながら株式会社エステムの経営を長年行つてこられました。ご自身の想いが社員に伝わらず、独学経営では上手くいかないという限界を感じられました。共に学ぶ会社を目指すにはどうしたらいいのか、会社の経営を学ぶ中で愛知中小企業同友会と出会い、中小企業の経営者と共に支え合う中小企業同友会での活動を通して、培った信念を言葉にし、「業をしたいなら経営者をやめなさい」と経営者に厳しく覚悟を求める内容を書き下ろされたものです。

この本からは、鋤柄さんがまるでその場にいるのではないかと感じさせるくらい、自己紹介と着任の挨拶が論理的思考力や知識を習得するだけでなく、粘り強さや主体性などメンタル面においても成長できる教育方法を模索したく思っています。研究室では、同教育研究分野所属の茹田修一先生・食品化学教育研究分野所属の磯野直人先生と密に連携して運営します。まだ駆け出しで、実力・経験とも不足している部分もありますが、本学の方々と連携しながら、新たな気持ちで教育研究に精一杯取り組み、本学の発展と地域・社会に貢献していきたいと思つています。ご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしくお願ひ致します。

梅川碧里

## 一期クラス会を桑名で開催

昨年五月二八日、同窓生十七名が桑名に参集した。クラス会は平成五年から始まり、ほぼ二年毎に実施、今回で十一回目を数える。参集後、宿泊するホテルで早速オリエンテーションとなった。卒業以来五十数年ぶりに初めて会う人や、幾度となくお互い健在を確認できる人もいた。学生時代の風貌は、老人になったこと以外、特に変わり映えしない。故人となった同窓生六名を偲んで黙祷した後、各自が近況報告をした。以下はお世話になった秋田、林(真)両幹事のプランによる観光と懇親会について、余り面白い報告でないが、責を果たしたい。

## 三翠化学会 東海支部だよ



東海支部の懇親会は年に三、四カ月に一度、夕方六時、名古屋市の金山総合駅の隣にあるANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋の二階ビュッフェレストラン「ガーデンコート」に集まり、開催してお



『経営者を叱る 学んで実践し続けてこそ』 鋤柄修 著 (三恵社)

## 自己紹介と着任の挨拶

平成三〇年三月一日に生物圏生命科学専攻・生命機能化学講座・食品発酵学教育研究分野の助教に着任しました。京都で生まれ育ち、三重県に馴染みはありませんでしたが、本学での着任をきっかけに夫と二人の娘と共に三重県に移住しました。海と山に囲まれ、資源と美味しい食べ物が豊富にあるせいか、学内の方々と含めこちらの方々をおおらかに親しみやすい雰囲気の方が多く感じます。本学に赴任することができたご縁と幸運に家族共々感謝しています。

私は、京都大学大学院生命科学研究科にて(主査)山本憲二教授、微生物の糖代謝酵素を活用した

糖タンパク質合成法の開発に取り組み、博士号を取得しました。博士研究員として、米シガン大学(Duke University)教授の下、酵母遺伝学を学んだ後、立命館大学生命科学部の任期付助教に着任し、教育に携わりながら、酵母の細胞応答と糖質代謝に関する研究に着手しました。本学に赴任前の数ヶ月間は、学術振興会特別研究員として京都大学に研究を継続しました。

本学では、生物資源学専攻の教員として、これまでに取り組んできた酵母や糖質代謝酵素を扱う研究を進展させ、食品生産やエネルギー問題に寄与できる研究を展開したいと考えています。教育の面では、学生

### 第八回 三翠化学会 関東支部交流会報告 日本橋の三重テラスで開催、「忍者の携帯食」の久松名譽教授が講演

第八回三翠化学会関東支部交流会を平成三〇年三月十七日(土)一〇時半から、日本橋室町の「三重テラス」の二階会議室で開催し、本部から出席いただいた杉崎護三翠化学会会長(大16回)以下総勢二四名が集まりました。

今回は三重テラスで開催したこともあり、交流会に入る前に「伊勢神宮 源郷」「熊野古道伊勢路」のビデオの紹介だけでなく、三重テラスの職員による三重テラスの取り組み概要の説明と「三重の応援団」の募集をすることができました。

その後、東海副支部長(大19回)の進行のもと、吉田支部長(大18回)の挨拶、杉崎会長から三翠化学会本部の活動状況を含めた来賓挨拶をいただいた後、講演会に入りました。

今年の講演会は、久松眞三翠大学名誉教授・社会連携特任教授にお出でいただき、「忍者の知恵を生かす三重大学プロジェクト」忍者の「携帯食」と題して開催しました。平成二四年に三重大学に忍者研究がスタートし、平成二九年七月に国際忍者研究センターが開設され、平成三〇年二月に国際忍者学会が設立されたことなど、これまでの取り組みの経緯、忍者のルーツと忍者の実体(真の忍者と虚像の忍者)、忍者の携帯食の特徴と忍者を支える(ストレス改善のための)効能、携帯食の再現、そして、印や息長からお礼の印までの忍者を参考にしたストレス対策が現代社会のストレス対策にも通じることなども披露され、私もが感じていた忍者のイメージを新たにした講演内容でした。また、忍者の世界を学術的に研究すると、日本独自の文化として世界に発信できると確信したという、先生の思いを感じ取ることができたのではないかと思います。

集合写真撮影の後、本日の長老である加藤先輩(大5回)の乾杯の発声で恒例の懇親会が始まりました。今回の料理は、三重テラスの Party Plan 「三重の旬堪能コース」二時間飲み放題プランで、三重の地酒を

### 今、私は

岡本明子 (大32回)

主婦、時々環境カウンセラー、それが今の私だ。所属はない。フリーランサーと称し仕事を待つ。自ら企画するのは、環境カウンセラーと行く、と題した見学型環境講座だ。名古屋市の助成も受け、一年以上続けていく。半年ごとにテーマを決め、講義十見学の形で、ほぼ毎月開講している。この講座には、東海支部の先輩方も参加してくださり、感謝している。

農芸化学を三〇年以上前に卒業し、就職したのは今の三翠化学の研究開発部だった。工業化学は単語から異なりチンパンカンパ等法施行前で、女性保護と

て、印や息長からお礼の印までの忍者を参考にしたストレス対策が現代社会のストレス対策にも通じることなども披露され、私もが感じていた忍者のイメージを新たにした講演内容でした。また、忍者の世界を学術的に研究すると、日本独自の文化として世界に発信できると確信したという、先生の思いを感じ取ることができたのではないかと思います。

集合写真撮影の後、本日の長老である加藤先輩(大5回)の乾杯の発声で恒例の懇親会が始まりました。今回の料理は、三重テラスの Party Plan 「三重の旬堪能コース」二時間飲み放題プランで、三重の地酒を



堪能し盛り上がりました。また、皆さんの近況報告もあり、先輩、後輩の年齢を越えて大いに欲談し二時間強の懇親会はあつという間に過ぎました。最若手の酒井(大34回)さんの締めの後、後井副支部長(大19回)の指揮で「三翠応援歌」を大合唱し、来年開催する総会での再会を約し、交流会を終えました。

最後に、今回の交流会の出席者を紹介させていただきます。

加藤晃(5回)、鈴木潔(9回)、辻野隆房(11回)、亀山幸輝(12回)、小島楯彦(15回)、長島貞武(15回)、杉崎護(16回)、岡田啓(17回)、吉田吉明(大18回)、浅井美文(19回)、浅尾由一(19回)、東海裕作(19回)、西出祐次(19回)、田中俊一(20回)、平田友良(20回)、藤川誠一(20回)、中島亨(22回)、丹羽誠一(22回)、飯田徹也(23回)、浦田茂也(23回)、菅原博(26回)、蛭野政美(27回)、坂倉正司(30回)、酒井和好(34回)(関東支部支部長)

回)、吉田吉明(大18回)、浅井美文(19回)、浅尾由一(19回)、東海裕作(19回)、西出祐次(19回)、田中俊一(20回)、平田友良(20回)、藤川誠一(20回)、中島亨(22回)、丹羽誠一(22回)、飯田徹也(23回)、浦田茂也(23回)、菅原博(26回)、蛭野政美(27回)、坂倉正司(30回)、酒井和好(34回)(関東支部支部長)

「生物化学・分子細胞生物学研究室同門会」幹事会を設置

上記同門会は、この6年間に3回の同門会(嶋林先生勲章受章祝賀会を含め)を開催し、46名、78名、78名と多数の同門諸氏を集めて来ました。今後も引き続き同門会を開催していくため、次の様な幹事会を設置することになりましたのでご連絡いたします。今後開催される同門会には、是非とも多数の同門会諸氏の参加をお願いいたします。

幹事会役員

会長 古山順啓氏(大24回)  
副会長 伊藤 真氏(大25回)  
田中完爾氏(大25回)  
中北隆也氏(大27回)  
幹事 小川悦代氏(大30回)  
籠谷和弘氏(大43回)  
栗谷健志氏(生8回)

備考  
大43: 生物資源学部4回農芸化学コース  
生8: 生物資源学部生物圏生命科学科8回

岡本明子(大32回)という名の制約が多かった。学生時代には感じなかった『女性』という立場を、突きつけられていた。私の行動が、次世代の女性たちに影響を与えるかもしれないと、気負っていた。短期間ではあったが、多くの社会勉強をした。

その後、結婚・出産。子育て後の再就職を狙ったが、時はバブルがはじけ新卒さえ就職が難しい時代となっていた。機会をうかがっていた時、『環境』に出会った。『環境』という言葉が今の地球環境を示す言葉ではなかった三〇年前、自然保護運動に参加した。自然保護から始まった環

境人生は、化学物質、循環など広義の環境につながっていた。農芸化学は、環境や生活とのかかわりが深い。農業は環境破壊だという環境運動家たち。農業も化学肥料も嫌、必要に迫られて研究開発されてきた食品添加物も品種改良も忌み嫌う生活者たち。公正な情報をあえて信じず、エセ情報に振り回される人々。知らない事・気付かない事が原因ではないかと感じた。専門家と普通の人をつなぐたいと思ひ、活動を続けました。

試行錯誤の毎日だった。想像もしなかった機会も得た。愛知万博で秋篠宮家の眞子様・佳子様を一時間程ご案内、NHK教育テレビ『どくする地球のあした』の回答者・司会・活動



五月九日 土曜日に津新町のプラザ洞津にて、栗冠和郎先生の退職祝賀会と醜酔学研究室、応用微生物学研究室、微生物学研究室、微生物遺伝学研究室の同窓会を開催しました。現役の学生を加えると二〇〇名を超える皆様に、ご参加いただき、なかにはご夫婦・ご家族で来ていただいた方もおみえな会となりました。開宴前からロビーの

皆様からのご厚志は随時承っています。金額の多寡にかかわらず喜んで頂戴いたします。

・郵便局よりの振込には、表紙題字の下に記載の振替口座番号宛お振込みください。

・銀行やコンビニATM等からでも振込は可能です。その際は、使用可能な銀行キャッシュカードをご使用いただき、

銀行名: ゆうちょ銀行  
金融機関コード: 9900 預金種目: 当座  
店名: 〇八九店(ゼロハチキユウ店)  
口座番号: 0059345

にて振込手続きをお願いします(振込手数料は当方負担とさせていただきますので手数料分を差し引いてお振込ください。 会計担当: 木村(大25回)

国を護るしくみ セントレア

環境 安全 検疫

外来生物 人・動物・植物の病気

国際空港で学ぶ水際対策

一〇月から開講する見学型環境講座「セントレアまるごとウォッチング2018」

# 第一九回三翠化学会 関西支部交流会報告

昭和五九年に第一回総会が開催された三翠化学会関西支部は、平成一三年からは、名称を支部総会から交流会に変更し、毎年開催を重ね、現在も活動を続けて



おります。これも支部の活動を支えて頂いている三翠化学会本部、毎回の交流会に際し、これまでご講演を引き受けてくださった講師の皆様方の多大なご協力があつてのことで、心より御礼申し上げます。

第一九回支部交流会は、平成二九年一月一八日、平成一〇年一月一八日、ご来賓として三翠化学会長の杉崎護氏(大16回)、副会長の木村幸信氏(大25回)にご出席を賜り、今回も新大阪のホテルクライトンにて開催されました。

第一部は関西支部総会で、冒頭に物故者に黙祷を捧げました。次いで杉崎会長よりご挨拶をいただき、三翠化学会本部の現状と各支部の活動状況報告及び三翠化学会への賛助金への御礼がありました。また、本部総会への参加率が低いので、積極的な参加の呼びかけ、同窓会の運営方法の再検討についてお話しされました。その後、谷中支部長(大13回)からは平成二八年度の活動報告、堀幹事(大



28回)の会計報告、谷口幹事(大20回)の会計監査報告が行われ、満場一致で承認されました。引き続き役員改選が行われ、二年間重責を果たされた谷中支部長がこの総会をもって退任され、新たに、伊藤副支部長(大21回)が新支部長に選出されました。谷中支部長には二年間、支部の活動にご尽力いただいた功績に

感謝申し上げますとともに、今後とも幹事として、関西支部の活動への協力を引き続きお願い申し上げます。また、伊藤新支部長には、これから関西支部の活動の中心となり、先頭に立っていただくことになりま。幹事一同、新支部長をサポートし、この交流会の活性化に向け、気持ち新たに役目を果たしてまいりま

後の見通しについてご講演いただきました。その中で、「高齢化の進行で医療費は毎年増加しているため、後発品への切り替えが以前より速く進んでいる上、毎年の薬価切り下げも予定される等、医薬品市場の環境が以前とは大きく変わり、今はマイナス成長も見込まれ、厳しい時代に突入した」というような状況でも、革新的医薬品への報奨制度、新薬創出加算制度を利用したり、自社の研究開発のスピードアップに努めたり、他社からの導入品の検討等、厳しい環境下での生き残りを図っている」というお話が印象に残りました。

続いて、三重大学生物資源学研究所准教授の勝崎裕隆先生(大36回)より、「農芸化学の学生の選和最後から現在まで」研究環境、学生生活、就職などについてお話がありました。最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

## 今、私は

「オンラインワン肥料メーカーを目指して、一五年の歩み」

有限会社グリーン化学 代表取締役社長 浅尾由一 (大19回)

二〇一〇年初秋、五三歳になった私はサラリーマン生活に終止符を打つ決断をしました。サラリーマン人生の出発点は、四日市合成(株)という地元の企業でした。その後、乞われて親会社であるライオン(株)に転籍し、東京都江戸川区にある研究所で新素材の開発などの研究に没頭していました。ところがバブル崩壊後の一九九〇年代から二〇〇〇年代初頭、長期にわたった景気低迷でリストラという潮流のもと「人員整理」という過酷な状況に団塊の世代の多くが直面し

たことと思います。ライオン(株)でも、幾度となく早期退職の募集がありました。が、子供達が立ち立するまではと思いい、手をあげることはありませんでした。ようやく彼らの独立が決まり、二〇〇二年九月に退職金を原資に、液体肥料や植物活性剤の製造販売を行う有限会社グリーン化学を設立しました。

数多ある肥料メーカーの中で、当社が認知されるには、独自の肥料を開発する事でした。私は三〇年に及ぶ化学に関する研究の経験から、化学品の合成や抽出

手代理店や商社からも引き合いがあり、販売規模も一気に拡大しました。今では、北は北海道から南は沖縄まで、水稲をはじめイチゴやトマト、キュウリなど様々な作物に使われ、プロのトーナメントが行われるゴルフ場の芝生にも施用されています。

「正珪酸」以外にも、土壌中の悪玉菌を減らして善玉菌を増やす「キトサン」に関する特許も取得しました。今年で古希の節目を迎えました。研究意欲は衰えず、新たな素材の開発に取り組み中であり、近く数件の特許を申請する予定です。

会社設立から一〇年独力で頑張っており、

※当社製品の詳細は下記ホームページをご覧ください  
HP: <http://www.green-ch.co.jp> / 電話: 048-212-3800

## 第20回三翠化学会 関西支部交流会のご案内

日時 平成30年11月17日(土)  
午前11時から  
場所 ホテルクライトン新大阪

談話会特別講師  
「三重大大学の昔と今」  
久松 眞氏 (三重大大学特任教授)

最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。



## 邦楽の世界に飛び込んで

六七歳になった夏、初めて三味線を手にしました。長唄の師匠から毎週手ほどきを受け、周りから冷かされたながらも、今年で三年目。松の緑、末広がり、小鍛冶、五郎、そして花見踊り。これが三年間で学んだ長唄の題名です。たつたの五曲かとお思いでしょうが、これが一杯。

その時は、「殺す気か。帰れ」と言われました。ムツとしましたが、教官の気持ちは分かります。今も、師匠の気持ちは痛いほど分かります。でも、指が動きません。師匠は四歳ときから三味線を弾いていたそうです。私は六七歳からです。

テテテンテンテツツとレツツツ。これを口三味線と言いますが、三味線を弾くとこの様に聞こえます。昔は、この口三味線で師匠は弟子に弾き方を教えたそうです。今は、ドレミで教えてくれます。でも、三味線には三本の糸がただ張つてあるだけで、目印はありません。どの糸のどこを押さえたら、ラ音が出るのか、ファ音が出るのか、すぐに覚えられない。そして、撥(バチ)で糸を叩くように弾きます。糸と糸の間隔はわずかにセンチ、指で引くのではなく、撥(バ

紹介し、報告とさせていただきます。 嶋林幸英(専一)、杉崎護(大16回)、杉崎清子(大16回)、勝崎裕隆(大36回)、小川悦代(大30回)、木村幸信(大25回)、谷中国昭(大13回)、小林紘一(大12回)、高木饒(大12回)、内田勝啓(大15回)、大北明(大16回)、伊藤哲雄(大21回)、浅井以和夫(大27回)、古橋雅巳(大19回)、松本孝(大19回)、堀英一(大28回)、北村智(大30回)、田宮敏呂(大36回)、西本和実(大33回) (敬称略)

「ラ、それはラじゃやない……まだラじゃやない。ラはどれ！」 「中指……それは人差し指」 「ホイ、じゃない、オイ(掛け声です)」 「どうやって教えようかね……」(師匠、ほとほと困っています)

「先生、諦めないでください」

昔、自動車教習所で、カーブを回る時に、教官に怒鳴られるながら、両手両足をそれぞれ異なる操作をするという、初心者にとっては超離れ業をやらうとして、結局、前の扉に激突しそうなったことがあります。

東海裕作(大19回)

# 沖縄だより — 現役をリタイアしてなぜ沖縄か —



私は今、沖縄本島北部の瀬底島に住んで六年目を迎えています。この瀬底島は橋のある離島で、近くに

スパーが三カ所もあり、内科、眼科などの病院への送迎バスも適宜巡回して日常生活に何の不自由もない島です。なお近くには美ら海水族館もあります。さてなぜ沖縄だったのかについて順序立ててお話を進めます。私は六五歳でリタイアしました。リタイアして数か月は解放感に浸り、とてもハッピーでしたが日が経つにつれ何か物足りない、「どこかへ行きたい」という気持ちになりました。この気持ちの根源は遡ること約四五年、私が二七歳の時、ロータリークラブから親善使節としてフロリダに派遣されるといふビッグチャンスを得た時の事です。フロリダでは各地を見学し、交流しました。その中でシニアの方々が多く住むリタイアメント・コミュニティを案内されました。そこはニューヨークやシカゴで活躍されたビジネスマンがリタイア後に温暖な地フロリダでフィッシングやゴルフなどでセカンドライフをエンジョイするというライフスタイルがあるというところを知りました。その瞬間に私の心の中に「どこかへ行きたい」が芽生えました。

私はリタイア後にオーストラリアやフィリピンにも移住先を求めて調査・体験に行きましたが、しつくりしませんでした。そうこうしているうちに私たちの知人、ご夫婦が沖縄の瀬底島で移住生活を始めていたという情報を得ました。早速現地に行つた所、すつかり気に入りました。

家内も賛同してくれて移住計画は、土地探しからスタートしました。そして伊江島と水納島が一望できる高台に、台風が強い沖縄仕様のブロックハウスを建築しました。もちろんバリアフリーでオール電化です。家内は好奇心が旺盛で元氣印の女性です。私がアメリカに単身赴任しているときも五歳と八歳の息子を連れて会いに来てくれました。その後も友人とヨーロッパなど各地にスケッチ旅行に出かけていました。現在のわれわれですが、

家内は沖縄にすっかりなじみ、琉球舞踊や民俗舞踊を習い、舞台でその踊りを披露し、老人会のグラウンドゴルフの世話役などと活躍しています。移住のキーパーソンは連れ合いです。旦那が先に来て奥さんが後でしづぶ来るパターンはあまりうまくいきません。

私は週に二、三回、名桜大学の聴講生として若い学生の中に混じって学んでいます。もちろんレポート提出も中間テスト、期末テストにも現役学生と同様に参加しています。そしてNHKラジオを聴きながらの家庭菜園を楽しみ、無農薬、有機栽培の新鮮野菜を頂いています。またほぼ毎朝ですがピッチまで行き、砂浜では裸足で歩いています。この時にポイ捨てゴミや漂着ゴミを拾ってきます。そして移住の感謝に近く

のバス停や拝所の草取りや清掃も行っています。そして今年には班長の仕事も行っていきます。瀬底島の良さは人びとのやさしさと温暖な気候です。これは肩こりやひざ痛を忘れさせてくれます。また夏も日中は海風でさほど暑くなく、朝夕には涼しくなります。沖縄名物の台風もめつたに本島に直撃しません。何しろ沖縄は広いのです。東西一〇〇km、南北五〇〇kmもあります。石垣島や宮古島あるいは大東島にきた台風は私たちの住む沖縄本島ではそよ風が吹く程度です。但し本島に直撃すると家庭菜園は壊滅となります。

とにかくセカンドライフを思いつきりエンジョイしています。  
大西英雄 (大16回)

## 農場の巻締機のご紹介

三重大学の農場にある巻締機は、多くの同窓生の方が実習の際にご覧になられたと思います。昭和四六年(一九七一年)に現在病院のある場所から現在の津市高野尾町へ移動した際に、巻締機も移動したとの話は伺っていました。すなわち、四七年以上に製造された装置なのです。

現在二機ある巻締機について、詳しく調べました。一機は東洋製罐株式会社、形式OVS、No.297、昭和一三年五月に製造されたものでした。この記事を書いている時点で製造後八〇



東洋製罐株式会社、形式 OVS、No. 297 銘板 昭和 13 年 5 月と記載

東洋製罐株式会社、形式 OVS、No. 297 全景 現在も筍の缶詰 (2号缶) を製造



サンフードマシナリー 形式 HCV-805、No. 1224 銘板



サンフードマシナリー 形式 HCV-805、No. 1224 全景 現在はイチゴジャム (6号缶) やみかんの缶詰 (5号缶) などを製造

## 総会の点景

在校生



総会前歓談中

在校生とともに①



在校生とともに②

懇親会



## 「α+16 回生」の集い

さる6月9日桑名市で今年度2回目となる16回生の集いが催されました。16回生の集いは、すでに12年間3ヶ月毎に年4回の頻度で継続的に開催されています。会場もほぼ同一で、桑名市にて開催されていますが、メンバーは16回生に限らず、同年代以外の方(参加実績12回から45回までの男女、現状参加者の半数はα組)にも門戸が開放されているところが、普通の同期会と異なるところです。16回生の方々も、お仕事多忙な方、ご家庭・町内の御用で参加できない方、少々錆びついてこられた方、声の届かないところに旅立たれた方なども徐々に増え、非16回生が増殖、今では「16回生+αの集い」、さらに最近では「α+16回生の集い」と呼称されるようになって来ました。

年代が混在すると話が弾まないと思われるかもしれませんが、年に4回も計50回近く集まっていれば、先生の思い出話(やや悪口)や学生時代の武勇伝を同じ年代だけで語り合っても、鮮度的に限度があります。年代が幅広くなってこそ、悪口にも迫力が出てきますし、世代間で変わったところ変わってないところが話題となって面白くなってきます。

三翠化学会には事実上三重県支部がありません。開店休業状態です。他の三翠系同窓会のように、県内役所等に同窓生がざらりと揃っているのではないため、職場の枠を越えた同窓生のつながりは、本来化学会にこそ大事なはずなのですが、県内在住の会員がこれといった懇親の場を持たない現状は、化学会結束の弱点だと思います。

むろん本「集い」は原則16回生の集まりで、それを乗っ取る気はありませんが、せっかく三重県内で定期的に催されているのですから、遠路三重県までお出まじただく16回生をお迎えするつもりで、特に県内会員はぜひ「+α」として参加を考えてください。会場を津市や松阪市に移すこともやぶさかではありません。アルコールと料理とおしゃべりの時間さえあればどこでもいいのです。わがまを言わせてもらえれば、特に若い会員に飛び込んできていただきたく、さらに女性の方も大歓迎です。次回の集いは9月22日です。

参加ご希望の方、詳細お知りになりたい方は、下記アドレスにメールでご一報ください。

- ・杉崎 護 (大16回) : m-sugisaki@arrow.ocn.ne.jp
- ・木村幸信 (大25回) : y.kimura3no0@gmail.com